



令和 7 年 2 月 18 日(火)発行  
府中市立府中第九小学校  
校長 日野 正宏



## 特別号

### 令和 6 年度学校評価について

校長 日野 正宏

梅花の候、保護者の皆様、地域の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また日頃より本校の教育活動に対して、ご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございます。

さて、12 月中旬から下旬にかけまして保護者皆様と本校児童に、令和 6 年度の学校評価を実施いたしました。大変多くのご協力をいただきまして、ありがとうございました。学校評価の結果がまとまりましたので以下にご報告申し上げます。今年度、いただきました貴重なご意見から本校の課題を見出し、次年度の教育活動を改善するための材料とさせていただきます。

今後とも本校の教育活動への変わらぬご理解とご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

#### 調査時期と調査方法

**児童アンケート** 12 月中旬から下旬の任意の一日、書く学級で「Google フォーム」を使用して回答を実施し、得られたデータを数値化、グラフ化しました。

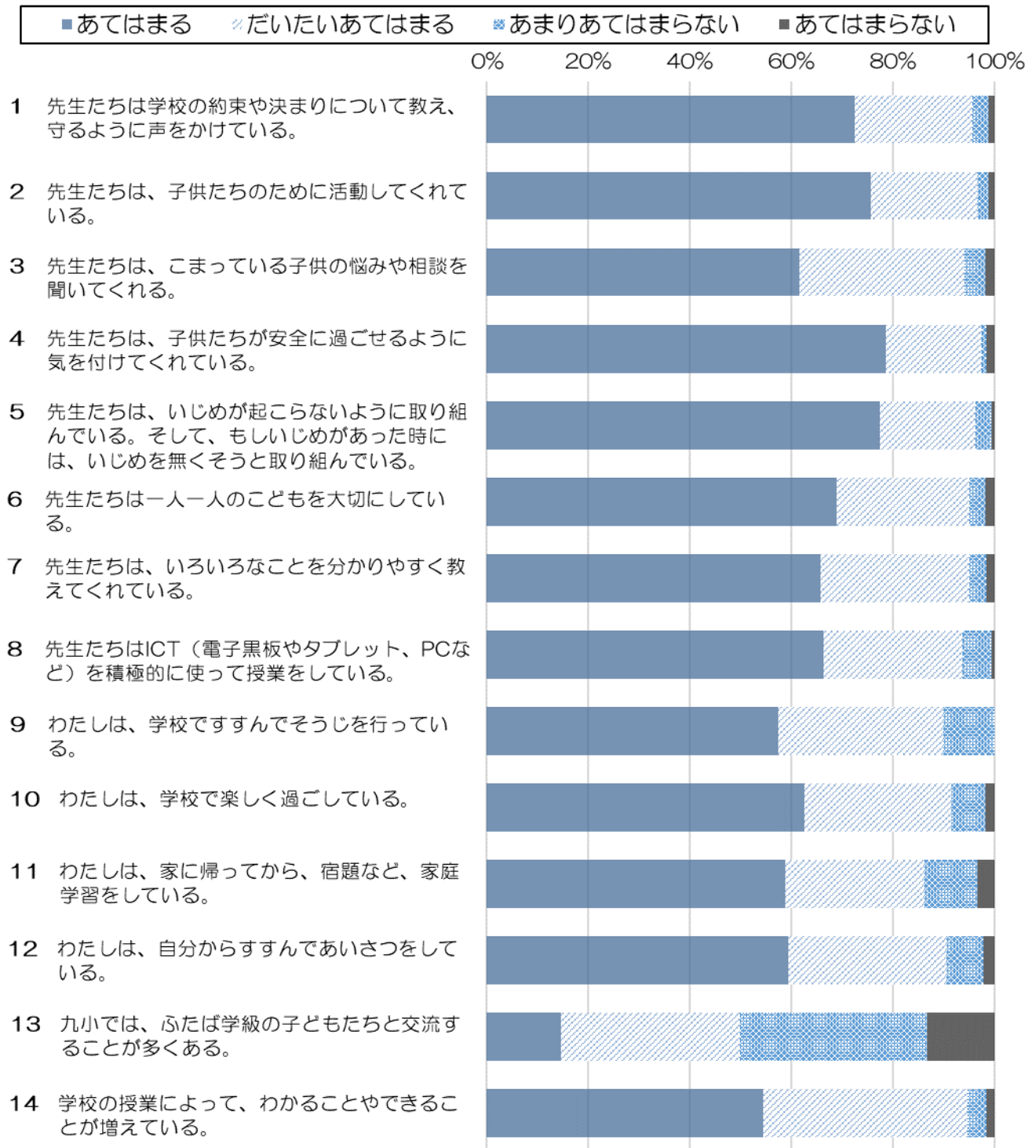
**保護者アンケート** 1 月 15 日から 1 月 22 日に回答をお寄せいただきました。

両方とも「Google フォーム」を使って実施し、得られたデータを数値化、グラフ化しました。

#### 全体的な傾向

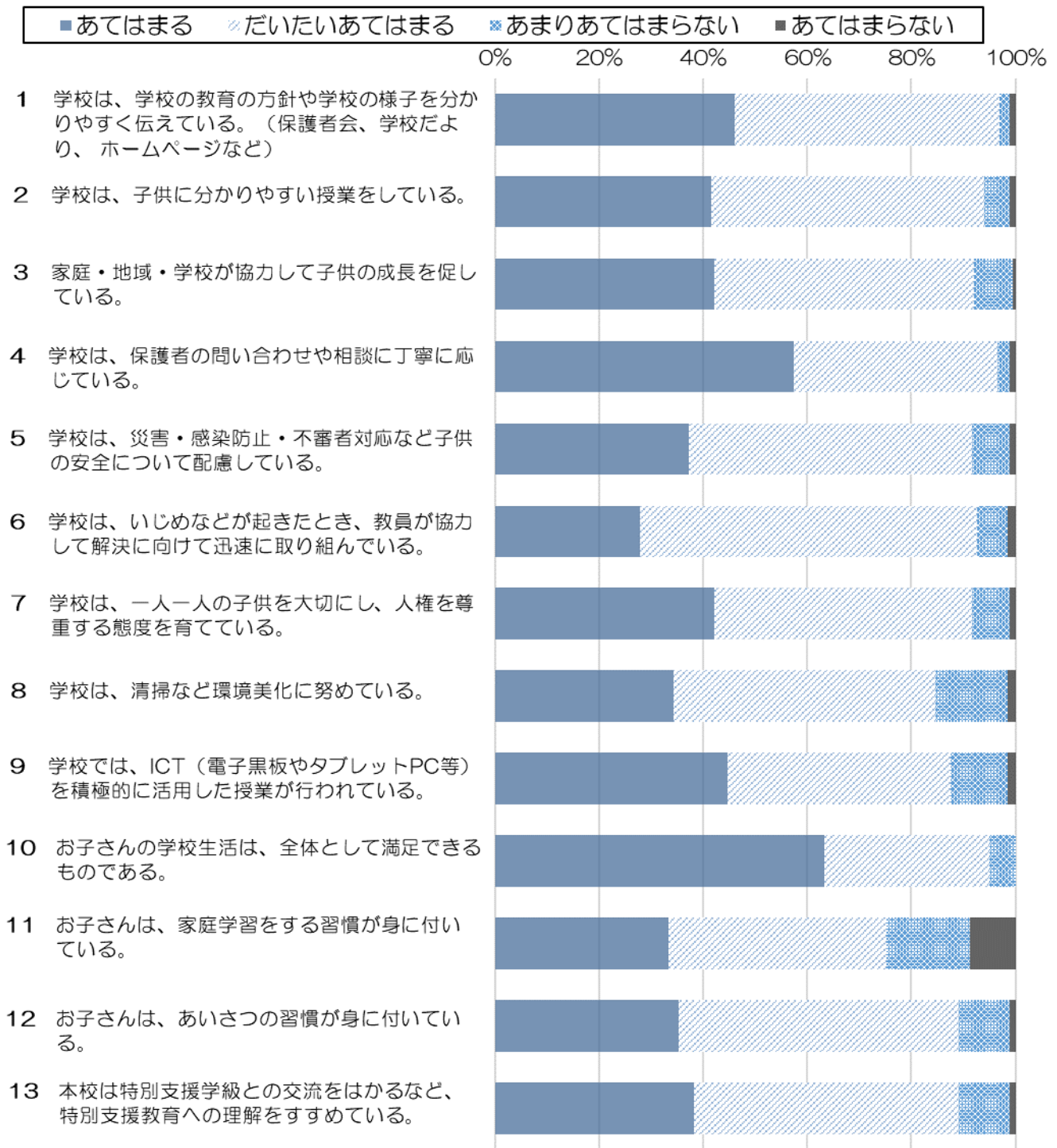
- 令和 5 年度に比べて保護者アンケートの回答数が 240 → 202 件と 2 割程度回答数が減少しています。
- 児童アンケートと保護者アンケートの両方で、肯定的な評価（「あてはまる」と「だいたいあてはまる」という回答数の合計）が 9 割を超える項目が多く、本校の教育活動に対して全体的に肯定的な評価を得られていることを見てとることができます。
- 児童アンケートと保護者アンケートの両方で、どの項目においても「あてはまる」という回答率が最も高く、全ての項目において「あてはまらない」という回答率が最も低くなっています。
- 児童アンケートと保護者アンケートを比較すると、「あてはまる」という評価が児童に多く、保護者では少ない傾向にあります。
- 家庭学習（児 11 と保 11）について、他の項目と比べて肯定的な評価が少なく、かつ児童と保護者の評価の差が大きい傾向にあります。よい確かな学力を定着させるためにも、引き続き家庭学習への意欲を高め、充実させるための手立てが必要です。
- 特別支援に関する項目（児 13、保 13）で評価が分かれています。特別支援学級設置校と特別支援教室の拠点校であることも鑑み、その利点を生かして特別支援に関する理解を広げるための取組が求められます。
- 保護者や児童への対応に関する項目（児 3・保 4）の評価が非常に高く、相談しやすく、細やかな対応が取れている状態が読み取れます。ただし少数とはいえ否定的評価があることも踏まえ、より丁寧な対応が求められます。

## 【児童】教育活動へのアンケート



- 安心、安全に関する項目（児3、児4、児5、児6）の評価が非常に高く、本校の児童は安心して学校生活を送ることができていると読み取ることができます。一方で同項目に「あてはまらない」という回答をした児童もあり、全ての児童の安全と安心を確保できるよう、改善を図っていきます。
- ふたば学級との交流に関する項目で評価が低くなっています。行事やクラブ活動、委員会活動、一部の教科を通して交流を行っておりますが、十分とは言えないようです。今後は児童に対して特別支援学級に関する理解教育を進め、より実感をもてる形での交流を推進してまいります。
- 教職員に対する肯定的な意見（児2・児7等）の割合が非常に高く、児童の教職員への信頼度の高さを読み取ることができます。引き続き児童の信頼を得られるよう、日々の教育活動にあたっていきます。

## 【保護者】教育活動へのアンケート



- ・保護者に対する発信、対応に関する項目（保1・保4）の肯定的効果が95%を超えており、保護者と学校が連携して児童の育成にあたるための素地ができ上がっていることが読み取れます。
- ・安全と安心に関する項目（保4・保5・保6・保8）の肯定的評価が非常に高い中で、美化に関する項目だけが9割を割り込んでいます。本校は校舎の建築から66年を経ており、学校施設の老朽化もありますが、物品の保管場所、児童の持ち物の置き場の確保等も含め、校内の美化活動の推進と共に、府中市教育委員会と連携をしながら施設面の改善を継続し、発信していくことが求められています。
- ・授業に関する評価（保2）が非常に高い反面、ICT活用に関する項目（保9）の肯定的評価は90%を下回っています。より有効なICT活用を推進する一方でICT活用とその意義についての情報発信をしていくことが求められています。

- ・家庭学習に関する項目での肯定的評価が80%を下回っています。一人一台端末を活用した家庭学習の推進を含め、教職員の中でも家庭学習についての内容の充実を図るとともに、具体的な実例や家庭学習の重要性に対する発信を継続し、より確かな学力の定着を図る材料にしていきます。
- ・家庭や地域との連携に関する項目（保3）の肯定的な評価の割合が非常に高く、本校でのPTA活動は大変盛んであるといえます。九小まつりを筆頭として、美化活動やあいさつ運動など、目に見える形でのPTA活動が充実していることを評価されていると思われます。
- ・児童の人権に関する項目（保7）の否定的評価が8%近くあります。昨年度の人権尊重教育の研究をいかして授業や研修等の中で人権への意識を高めたところですが、引き続き本校の取り組みについての情報を発信するとともに、特別支援教育について、保護者、地域の理解を深める取り組みを継続していくと同時に、教職員の人権意識を更に高め、本校に通う全ての児童が笑顔でいられるよう、見守っていきます。
- ・特別支援学級との交流に関する項目（保13）の肯定的評価が低くなっています。学校として特別支援学級との交流を充実させ、特別支援に関する理解教育の場をつくる等、児童への一層の理解を図ると同時に、保護者への具体的な情報を伝える機会を増やすことも求められます。
- ・前年度から行っている児童の学校への満足度に関する項目（保10）の肯定的評価、とりわけ「あてはまる」という回答が非常に多く、本校の教育活動への満足度が高いことが見て取れます。またこれも昨年度と同様に、「あてはまらない」の回答は0であり、本校の教育活動が多くの子供を集めている証左とも言えます。更に高い評価を得ることができるよう、教育活動を充実させ、保護者の皆様の理解を得られるような情報発信を継続していきます。

## 前年度との比較

### 【児童アンケート】

- ・ICT活用に関する項目（児8）の肯定的評価の割合が上がっています。前年度に比べてどの学年でも一人一台端末の運用が増えていることも一因だと思われます。新たなツールも導入されたこともあり、一層の充実を図っていきます。
- ・ふたば学級との交流に関する項目（児13）の肯定的評価が低下しました。次年度は特別支援学級に関する理解教育を実施し、また学校行事やクラブ活動、委員会活動を通して児童同士の交流を一層推進し、特別支援教育に関する情報の発信を行っていきます。

### 【保護者アンケート】

- ・いじめに関する対応についての項目（保6）の否定的評価が減少し、特に「あてはまらない」という割合が激減しました。今年度から導入しました「こころの天気予報」の取組や、日頃から行っている早期発見、即時対応の取組の他、相談に関する肯定的な評価（保4）をいただいていることも併せて、より高い評価を得られるよう、そしていじめが全く発生することのない学校を目指して、今後も指導と対応を充実させていきます。
- ・家庭学習に関する項目（保11）の肯定的評価と否定的評価はほぼ横ばいですが、「あてはまらない」という評価が1割近くを占めるようになっています。一人一台端末を活用した課題等も含め、各学年で今一度、家庭学習の重要性について児童と保護者へ発信しながら、児童への指導を継続していきます。
- ・学校の情報公開に関する項目（保1）の肯定的評価が5ポイント以上増加しています。学校公開日の保護者の皆様の参観率の高さに加えて、学校だよりや学年だより等における情報発信をより充実させたことで、より高い評価をいただけたものと受け止めています。より開かれた学校を目指して、引き続き実際に本校の教育活動を観ていただくための機会を増やしていきます。
- ・学校生活の満足度に関する項目（保10）の「あてはまる」の割合が20ポイント以上増えています。どの学年でも穏やかに学習活動が進んでおり、比較的生活指導上の課題が少ないことも、本校の教育活動に対する肯定的な意見に繋がっていると思われますが、「あてはまらない」の回答が0であったことも重要だと捉えています。引き続き満足度を上げられるよう、教育活動を充実させてまいります。